

【再生案件事例】

【事例概要】

- ・甲銀行より旅館業を営むA社について事業再生計画策定の依頼。
- ・A社は過去に実施した過剰な設備投資により大幅に有利子負債が増加し、資金繰りに窮することとなった。
- ・現状のままであると法的整理に陥るのは時間の問題である。
- ・過去の設備投資により、旅館建物は魅力的であり、サービスの満足度も高く事業性については十分に認められるところである。
- ・甲銀行の尽力によりスポンサー候補の目途が立ちそうであったため、私的整理を進めることとした。

【平成会計社のサポート】

1. 財務デュー・デリジェンスの実施。

財務デュー・デリジェンスにより旅館建物の多額の減価償却不足が発覚。結果として実態貸借対照表は大幅な債務超過となった。

2. スキーム策定 既にスポンサーの目途は付いている。

債務免除益に充当できる損金の計上が難しく、第二会社方式による再生を提案。

事業譲渡＋特別清算のスキームを選定。



3. プロジェクトの策定及びバリエーションの実施

会社の策定した損益計画を検証したうえ、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の計画を策定。計画に基づいてバリエーションを実施。スポンサーによる事業譲渡価格を算定。これらに基づいて、金融機関のカット額を算定。

4. 再生計画書の作成

債権者集会で使用する事業再生計画の作成をサポート

5. 債権者集会での説明

債権者集会に同席し、計画について説明。金融機関の合意を得る。

6. 実行フェーズサポート 事業譲渡に係る財産目録の作成。特別清算にかかる税務申告のサポートを実施。無事にEXITを迎える。

7. その後 外部環境変化も手強い計画を上回る収益を計上し、順調に計画を達成している。